

ディスコ・ビート

ディスコ・ビートの特徴

ディスコ・ビートとは、
その名の通り「ディスコ」でのダンスを目的とした音楽ジャンルです。

ファンクやソウルをルーツに持つブラックミュージックの一種ですが、
その一方で、ハウスやトランスなど
4つ打ち系ダンスミュージックのルーツでもあります。

ディスコ・ビートの特徴は以下のとおりです。

- ウラ拍にアクセントを感じる「裏ノリ」
- 4つ打ちを基本とするシンプルなビート
- ファンク以上にタイトでドライな音色

ウラ拍にアクセントを感じる「裏ノリ」

ファンク・ビートでもお伝えした通り、
黒人発祥の音楽は原則として全て「裏ノリ」です。

もちろん、ディスコ・ビートも例外ではありません。

ハイハットやライドは、
「裏打ち」または「裏拍にアクセント」が基本となります。

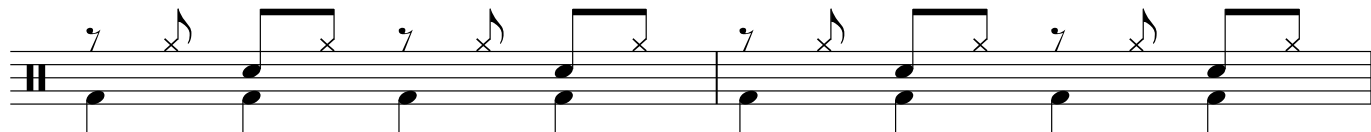
4つ打ちを基本とするシンプルなビート

ディスコ・ビートは、
4つ打ちのキックと2 & 4拍目のスネアを基本とする非常に潔いビート。

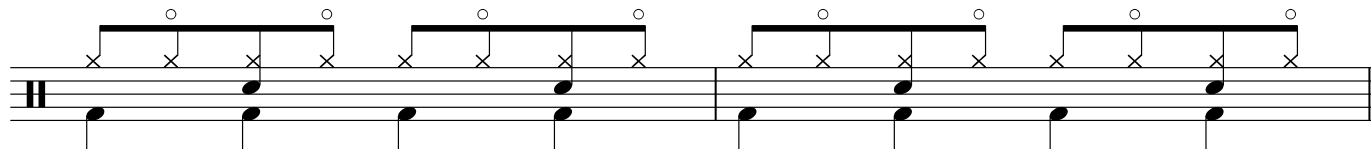
ディスコでのダンスを目的としているので、
ビート感がわかりやすいシンプルなリズムが特徴です。

ディスコ・ビート

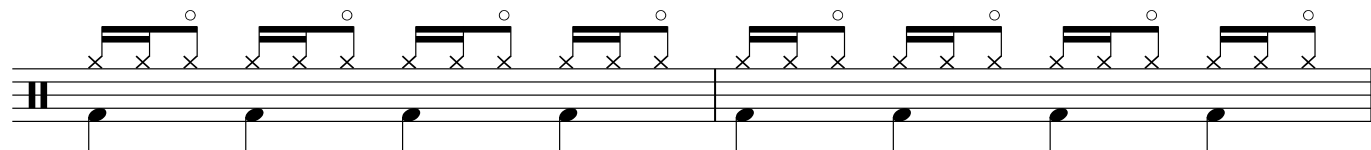
パターン①



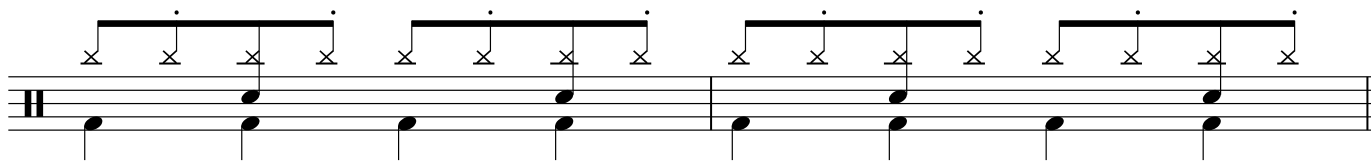
パターン②



パターン③

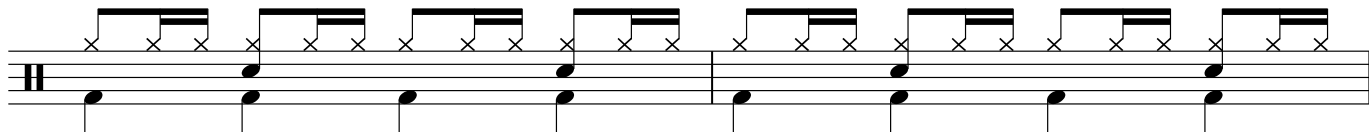


パターン④

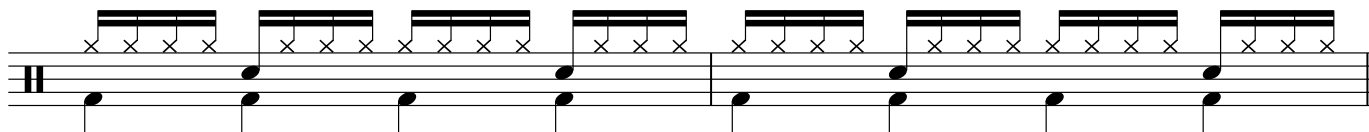


ディスコ・ビート

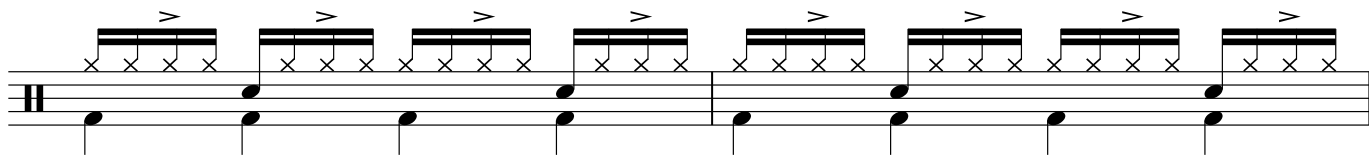
パターン⑤



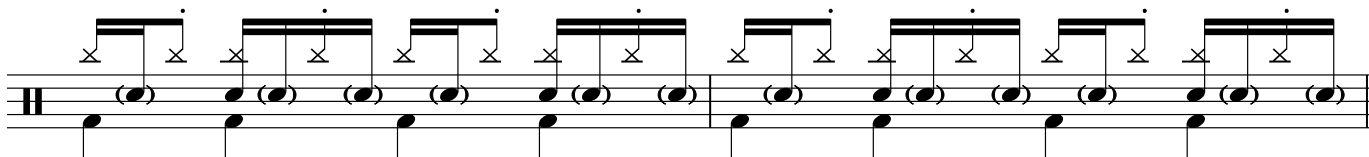
パターン⑥



パターン⑦



パターン⑧



ディスコ・ビートの音色選び

ディスコ・ビートでは
「ファンク以上にタイトでドライな音色」が特徴となります。

具体的には、以下の点を意識すると良いでしょう。

- 非常に短いテール(余韻)
- リバース感の薄いドライな音
- ボフとしたピッチの低いスネア

ディスコ用のキットをお持ちの方はそちらを使用してもよいですし、ファンク・キットやポップ・キットなどを加工して作っても大丈夫です。

ディスコ・ビート打込みのコツ

■ ディスコ・ビートのベロシティ

最大の特徴は、やはり裏拍ハイハットのアクセントでしょう。
これにより、「裏ノリ」感を十分に強調していくことがポイントです。
また、4つ打ちキックは
極力均等なベロシティで打ち込んであげることもポイントです。

■ ディスコ・ビートのクオンタイズ

ディスコ・ビートでは、極端なレイドバックは用いず、
あえてジャスト目に打ち込んであげることで淡々としたビートを表現します。
唯一、16ビートを演奏する場合は、
16分ウラをスウィングで遅らせてあげるとよい感じのグルーヴに仕上がります。